

南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN

vol.207
2018.12.20

特集
活躍する南山大生
～国際交流・社会貢献・産学連携～



NANZAN
UNIVERSITY

私の研究



榎原 秀訓 (さかきばら ひでのり)
法科大学院 法務研究科 教授
法学研究科長(予定) ※2019年4月、法学研究科開設予定
専攻分野は、行政法。
研究テーマは、司法審査、行政司法関係。
主な担当科目は、行政法(法務)、行政法演習(法務)、行政法総論A、行政法総論B、行政教済法。

が国では、いままでとは違ってものすごい早さで法律が制定・改正され、グローバル化の中で、外国の法がわが国の法に影響を与えることも大きくなっています。このように法が転換期を迎えている状況で、法律の趣旨は何か、外国ではどのように考え、運用しているのかなどを、自ら調べて考えていかないと本当の意味で法を理解したことはありません。その手助けをするのが大学院です。試験の点数を気にすることは異なる研究の世界にも目を向けていただければ幸いです。



『司法の独立性とアカウンタビリティ—イギリス司法制度の構造転換』
日本評論社 (2016年、単著)

法の転換期における行政法

私の専門は行政法という法分野です。国や自治体の組織や活動、そして国や自治体を相手に国民や企業が訴訟を起こす場合の法が行政法です。日本の法の特徴を明らかにするために、イギリスとの比較をして、行政行為の司法審査や司法行政を中心とした司法制度改革といったテーマを研究しています。行政がミスをして国民や企業の権利利益を侵害して、裁判所で争いになったとき、裁判所はどのような審査を行うべきか、その前提として司法の独立性やわが国ではあまり馴染みがない司法のアカウンタビリティが何故必要かなどが研究の内容です。イギリスを訪れたり、イギリスの研究者を日本に招いてセミナーを行ったりして、活発な意見交換をしています。

南山大学では、2019年4月から大学院法学研究科を開設します。大学卒業後に2年間研究を行う博士前期課程と、この課程修了後にさらに3年間研究を行う博士後期課程を用意しました。わ

私のクラス



佐藤 啓介 (さとう けいすけ)
人文学部 キリスト教学科 准教授

専攻分野は、現代宗教哲学、現代思想。
研究テーマは、死者をめぐる宗教倫理、悪や苦しみをめぐる宗教哲学
主な担当科目は、キリスト教哲学、宗教論、宗教に見る人間の尊厳。

現代日本のなかで宗教を問う

私が担当している科目のうち、3年生や4年生が履修するキリスト教演習(以下、ゼミ)について紹介したいと思います。

私の専門分野は現代の宗教哲学で、宗教を哲学的に論じることの現代的な意味を考察しています。私のゼミでも、現代において多様に展開する宗教や宗教的現象について、学生たちが各自の興味に応じてテーマを決めて研究しています。

日本をはじめ多くの先進国では現在、宗教が弱くなったと思われがちです。しかし実際には、宗教的な主題に対する関心は、良くも悪くも「しなやかに」広がって

おり、「宗教っぽい」現象は増殖しています。ゼミでは、宗教という視点から自分たちが住む社会や世界を考えることの楽しさや大切さを体感し、そこから学生が自分の研究テーマを発見する過程を重視しています。特に、現代日本社会では、宗教がある種「特殊なもの」と見られがちです。そのなかであえて宗教を論じるとはどういうことなのか、そういう問題を学生たちに日々考えてもらっています。

そのため、学生が私には思いもつかない研究テーマを見つけてくると、本当に嬉しくなります。無論、テーマの発見はやみくもな宝探しではなく、丹念な学びと考察を積み重ねた先にあります。今自分が生きる社会のなかで問うべき宗教的な主題は何なのか。そうした問いを粘り強く思索する力は、大学を卒業した後の人生をも支えてくれると信じています。



「キリスト教演習」の授業風景



News

2019年4月、大学院法学研究科を開設

2019年4月の開設を目指して申請しておりました南山大学大学院法学研究科(博士前期課程・博士後期課程)の設置が、2018年8月31日付で文部科学省に認可されました。

法学研究科では、法の転換期において、法解釈学にとどまらない「法の基礎となった価値原理間の衝突を調整すること」ができるアプローチにより教育研究し、国内外で法学研究者や法的専門職、民間企業の法務専門職員や公共公益団体の職員等の高度専門職業人として活躍する人材の養成を目的としています。

博士前期課程では、民事法分野、公法分野と刑事法分野という主要法分野のカリキュラムにおいて、法の整備に際しての法的価値の選択に焦点を当てた教育研究を行います。また、社会人の学生が希望すれば、3年で課程を修了することもできる長期履修制度を設けています。

博士後期課程においては、博士前期課程で身につけた知識や研究の手法を前提に、法的価値の選択に関して、研究者として自律的な研究活動を行い、または、高度の専門的業務に従事可能な高度な研究能力や豊かな学識を身につけることを目的としています。

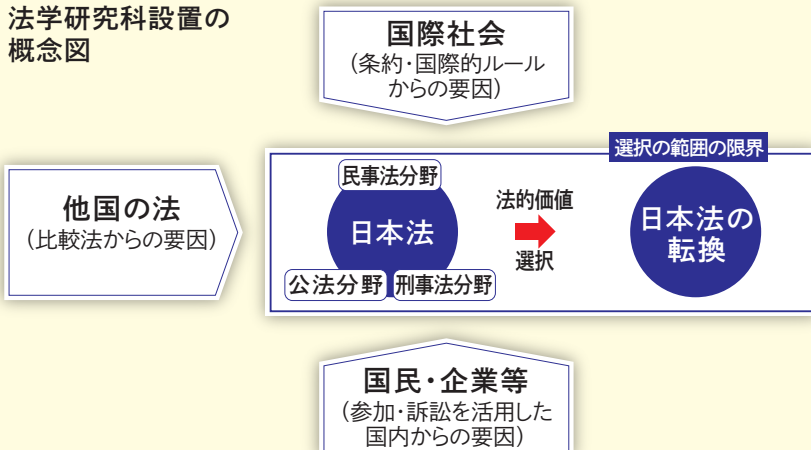
一般入学試験は秋季と春季の年2回実施し、募集人員は博士前期課程が6名、博士後期課程が3名です。社会人入学審査も同時期に実施し、若干名を募集します。

詳細は大学公式Webページ「大学院」をご覧ください。



<http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/index.html>

法学研究科設置の概念図



総合政策学部 鶴見哲也准教授が、 2018年度環境経済・政策学会 学会賞(奨励賞)を受賞

総合政策学部総合政策学科の鶴見哲也准教授が、2018年度環境経済・政策学会 学会賞(奨励賞)を受賞しました。本賞は、原則として若手による環境経済・政策分野の奨励に値する論文あるいは著書に対して授与されるものです。

受賞論文のタイトルは「Monetary Valuations of Life Conditions in a Consistent Framework: The Life Satisfaction Approach」で、OECD(経済協力開発機構)が提唱している「Better Life Index: より良い生活指標」に掲げられている11の柱に注目し、日本においてそれぞれの柱が相対的にどの程度

強く主観的幸福度に影響しているのかを明らかにした論文です。分析の結果、「健康」が最も重要な柱であること、2番目に重要な柱は「環境」と「所得」であり、「環境」と「所得」はほぼ同等の影響をもつことが明らかとなっています。

鶴見准教授からは、受賞にあたり「今回、このような価値ある賞を受賞することができ大変光栄に思っております。幸福度研究は日本を含めた各国の政府、省庁、自治体、そして国際機関(OECD、国連など)が政策にどのように活用すべきか模索している発展段階にあります。いかに説得的にこの指標を活用してい



けるか、いかに『より良い生活』を実現していけるか、について今後も研究に一層精進していきたいと考えています。」とお話いただきました。

人文学部 中尾央准教授が、「動物心理学研究」優秀論文賞を受賞

人文学部人類文化学科の中尾央准教授が、「動物心理学研究」優秀論文賞を受賞しました。本賞は、2017年10月に動物心理学研究領域における優秀な論文を奨励することを目的として、機関誌「動物心理学研究」における優秀な論文に対し、日本動物心理学会より授与されることが決まったものです。このたびその第1回目の選考が行われ、表彰を受けました。

受賞論文のタイトルは「メタ認知研究の方法論的課題」で、相模女子大学人間社会学部准教授後藤

和宏氏との共著によるものです。メタ認知研究における比較認知の在り方、方法論から理解の仕方、実験手法や結果の解釈に関する問題点、さらにはその解決策に関して現時点でまとめたことの業績は大きいとして評価されました。

中尾准教授からは、受賞にあたり「まずは、非学会員で、しかも動物心理学を専門としない者に対してこのような賞(しかも第1回目の賞)をくださった動物心理学会の寛容なご方針、そしてご協力いただいた共著者の

後藤先生に感謝したいと思っております。受賞論文は動物心理学の研究成果・方法論などを哲学的に考察した論文ですが、昨今は哲学も本当に多様な分野と協力しつつ、研究を進めるようになってきています。今後このような多彩な方面との共同研究を通じ、多様な哲学研究のあり方を模索し続けるとともに、哲学の幅広さ、面白さを広く伝えられればと思っております。」とお話いただきました。

名誉教授3名が秋の叙勲受章

平成30年秋の叙勲において、寺田邦昭名誉教授が瑞宝中綬章を、大岩勉名誉教授と鈴木真雄名誉教授が瑞宝小綬章をそれぞれ受章しました。

寺田名誉教授は、1965年南山大学文学部助手となった後、67年同講師、72年に同助教授、82年に同教授、2000年人文学部教授に就任。学生部

部長、教養課程主任などを歴任しました。2007年に本学名誉教授の称号を授与されました。

大岩名誉教授は、1968年南山大学外国語学部助手となった後、70年同講師、78年同助教授、88年同教授に就任。外国語学部イスパニヤ科長、評議会評議員などを歴任しました。2007年に本学名

誉教授の称号を授与されました。

鈴木名誉教授は、1971年南山短期大学助手となった後、73年同講師、76年同助教授、81年同教授に就任。南山短期大学図書館長、同英語科長、同学長補佐などを歴任しました。2010年に南山短期大学名誉教授の称号を授与されました。

南山のDNA



戸谷 国浩
経営学部経営学科
2010年3月卒業

Profile

2010年4月中部電力株式会社に入社し、営業所で主に中小法人向けをメインとする営業経験を2年半積んだ後、本店の財務業務に従事(現在に至る)。デリバティブ取引業務、社債発行業務を経て、現在、企業年金の運用業務を担当。

私の仕事は、一言でいうと従業員や退職者の年金資産を株や債券に投資して運用するという仕事です。従業員約16,000人と退職者の年金資産ですので、その金額規模は3,000億円を超える規模にもなります。たとえ1%のマイナスでもとても大きな損失につながるプレッシャーの大きな仕事ではありますが、全力で取り組む価値のある仕事で、やりがいを感じながら、充実した日々を過ごすことができています。

プロフィールを見ていただくとお分かりのように、あまり一般的には馴染みのない仕事ばかり経験させていただいています。どれも専門性が高い仕事ですが、これを任せてもらっているのも大学時代に培った経営学の基礎があるからだと思います。

大学時代、経営学部の授業で主に投資理論や金融理論を中心に勉強していました。当時、これら

の分野に出会ったのは、金融や投資の世界を数学で解き明かしていこうという『金融工学』と呼ばれる分野の講義でした。

経営学部には数学が苦手な方もいて、隣で受けていた友人も「難しくてよく分からない、こんなの将来役には立たないでしょ」と言っていました。この時「自分が勉強したいのはこれだ!」と感銘を受けました。

私は満遍なく何でもできる人よりも、ここだけは負けないという人になりたかったので大学では学ぶ分野を自分の好きなことに絞って勉強することにしました。

今思えば、どれも基礎的なレベルではあったのかもしれませんが、当時、成績優秀者で表彰を受けるなど「自身の得意分野だと自信が持てるようになったこと」が私が大学で得た最も大きな財産で

あり、さらに、その甲斐あって会社でも財務業務を任せてもらえることができたのだと思います。

中堅社員となり部下もでき、立場は変わりつつありますが、金融理論や技術が日々進化する中で、大学当時の初心を忘れず、財務業務をリードしていけるよう努力していきたいです。



一緒に勉学に打ち込んだ大学時代の親友と

INTERNATIONAL FRIENDSHIP



ACUCA (アジア・キリスト教大学協会) STUDENT CAMPに参加して

期 間: 2018年10月10日~10月14日
場 所: Christian University of Thailand (タイ・ナコンパトム県)
参加者: 有益社馬さん(外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科3年) 榎原琉海さん(外国語学部英米学科2年)

ACUCA実施内容

ACUCA※には、タイ・台湾・フィリピン・韓国・日本・インドネシア・インド・香港のキリスト教系大学が加盟しており、1994年以降2年に1度国際学生会議(STUDENT CAMP)が開催されています。この学生会議は、アジアの学生たちが互いの文化や社会を踏まえて共に語り合い、相互理解を深めるもので、今年は10月10日から10月14日にタイのナコンパトム県にあるChristian University of Thailandで開催され、8カ国・地域から74名の学生が参

加しました。今年は“The Internet's Impact on Identity and Character Development of Students in Asian Christian Higher Education: Issues and Solutions”をテーマに、学生同士のプレゼンテーションやディスカッションを通じて、様々な側面から問題への理解を深めました。また、期間中には参加学生が自国の伝統や文化を紹

有益社馬さん感想

今年のテーマは、今の日本だけでなく、世界各国が直面している課題の一つであり、とても考え深いものでした。特別ゲストとしてお越しいだいたJames E. Wilder教授の基調講演や、アジア各国から集まった学生たちとの発表や討論をとおして、我々が異なる国、文化で育ってきた中で、インターネットという共有のつながりがあり、同じ経験や問題を抱えていること、我々がインターネット社会の中で育った最初の世代であるということに気づきました。そして、インターネットが普及した社会だからこそ、宗教や社会における人間関係の重要性を学びました。今回のような、一度に多くのアジア各国の大学生と異文化交流をする機会が大学生活の中ではなかなかなく、同じアジアの国でも、自分がまだ知らなかった日本とは異なる文化や考え方に気づかされたり、それでもキャンプが終わる頃にはお互い家族のような絆が芽生えたりして、とても貴重な体験をさせていただきました。この経験や仲間との出会いへの感謝を忘れずに、今後の活動に生かしていきたいと思ひます。



James E. Wilder教授と

介する時間が設けられており、学生はそれぞれの国の遊びやダンスについて教え合い、学生たちの国際交流の場となりました。 ※ACUCA: The Association of Christian Universities and Colleges in Asia

榎原琉海さん感想

僅かな時間を共に過ごしただけでも、人は互いの心に触れることができるということ、今回のキャンプで痛感しました。朝から晩まで予定がぎっしり詰まった、多忙を極めるスケジュールでしたが、皆で一つのテーマについて真剣に考え、自由に意見を交わしたディスカッションの時間や、大勢の仲間と食卓を囲み、互いの国や文化のことで盛り上がった時間は、私の中で一二を争う最高の思い出となりそうです。参加者同士で親交を深める機会も多分にあり、もう何年も付き合いがあるかのような親しみを感じる、素晴らしい友人にも恵まれました。日々仲間と関わる中で痛切に思ったのが、英語という共通の言語のおかげで、多種多様な背景を持つ人々と交流できるだけでなく、自由や平等といった、英語という言語に付随する価値観をも共有できる、ということです。しかしそれにも増して私たちが強く結びつけたのは、キリスト教の価値観を心の基盤としていることでした。皆と過ごした思い出を胸に、これからも頑張っていきたいと思ひます。



お別れパーティーにおいて

Special Events

2018.9.29

父母の集い

9月29日に、南山大学と南山大学後援会の共催で、第46回南山大学「父母の集い」を開催しました。全体集いの第1部では、鳥巢学長、木村後援会理事長の挨拶に続き、学生生活、進路支援、国際教育、レーモンド・リノベーション・プロジェクトについて説明を行いました。第2部では「Nanzan Student Challenge Projects: Our Stories」と題して、課外活動や学部での学びに力を入れている学生たちが自身の取り組みについて報告をしました。他にも学部・学科懇談会や指導教員との個別面談、学内の施設見学などを実施しました。



2018.10.13

第52回宗教劇「受難」

10月13日に、R棟フラッテンホールで第52回宗教劇「受難」の公演を行いました。今年はキャンパス内改修工事のため、会場を屋外のパヴェ・スクエアからフラッテンホールに移しての開催となりました。十字架などの道具の配置を考え、舞台上だけではなく客席も使って演技を行うなど、屋内ならではの音響効果や場面に合わせた照明を工夫しました。

「受難」は南山大学を代表する伝統行事で、イエス・キリストのエルサレム入城からゴルゴダの丘における十字架の上の死を経た復活までを、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員の学生たちが演じる宗教劇です。

今年の脚本は、キリスト教の教えである「隣人愛」を主軸として、イエスの「使命」、それぞれの登場人物の「運命」をテーマにして構想を練り、新約聖書のマタイ、マルコ、ルカの福音書と例年の脚本を参考にしながら学生たちが書き下ろしました。テーマには、「主人公であるイエスが自らの使命を全うする姿、登場人物のそれぞれが運命に翻弄されながらも懸命に生きる姿を劇から感じ取っていただけたら」という思いが込められました。当日は迫真の演技が次々に繰り広げられ、今年も盛況のうちに幕を閉じました。



Special Events

2018.10.29-2018.11.5

スウェーデンウィーク

国際センター主催国際ナショナルウィークの第3弾として、スウェーデンウィークを開催しました。期間中は日本・スウェーデン外交関係樹立150周年を記念して、多文化交流ラウンジ(Stella)で文化紹介パネルや民芸品を展示するほか、学生食堂、丸善キャンパスショップ、IKEA長久手の協力を得てスウェーデンマーケットを行い、多くの学生や教職員がスウェーデン文化を楽しみました。10月31日には、4グループ合計20名の学生が「Stella空間プロデュースコンテスト」に参加し、多文化交流が促進される「理想的な寛ぎ空間」を提案しました。現状の課題を踏まえた各グループのユニークな提案に、審査員のIKEA長久手Deputy Store ManagerのZehra Baran氏から「空間プログラミングに必要とされるリサーチ、マーケティング、プレゼンテーション力など各グループに強みがあった」と講評をいただきました。

大学祭期間中の11月3日には公開講演会・交流会を開催し、駐日スウェーデン大使館政治担当参事官のスペン＝アキラ・オストベリ氏とIKEA長久手Store ManagerのPeter Heint氏に「自分らしく、心豊かに生きられる社会」というテーマでご講演いただきました。



た。交流会ではスウェーデン学生による文化発表やスウェーデン流のお茶時間「FIKA」を通じて参加者同士で交流を深め、最後には伝統音楽やダンスで盛り上がりました。



2018.11.1-2018.11.2

韓南大学校法政大学法学部(韓国)との学術交流会

南山大学法学部・法科大学院と韓国の韓南大学校法政大学法学部は、毎年11月初旬に学術交流会を開催し、研究発表や議論を行っています。1年交代で日本または韓国を開催国としており、16年目となる今年は、本学で11月1日から11月2日に実施しました。この交流会は、法学部・法科大学院の教員のみではなく希望学生も参加しており、今年は「日韓競争法の諸問題」をテーマに議論を交わしました。学術交流の他、懇親会も実施し、大学間の交流が積極的に図られました。



2018.11.2-2018.11.4

第69回大学祭「南山祭」

11月2日から11月4日の3日間、第69回大学祭「南山祭」を開催しました。今年のテーマは「bouquet(ブーケ)」。メインストリートには約50の模擬店が並び、教室棟や体育館等では、カフェ、音楽演奏、作品の展示・販売、寄席、映画・演劇の上演等を行いました。さらに今年は、南山チャレンジプロジェクト採択団体のITBが「世界料理総選挙～食で世界を繋ぐ～」と題して模擬店で販売した世界各国の料理の人気投票を行い、異文化理解の促進や留学生との交流を深めました。また、グリーンエリアに設置されたメインステージでは、開祭式から後夜祭まで、バンド演奏や演技披露等、各団体が練習の成果を発表し、多くの人で賑わいました。

また、南山大学同窓会主催の「ホームカミングデー」も11月4日に開催されました。抽選会、茶席、バザー、在学生と若手卒業生を対象とした講演会と交流会「南山卒コン」や子ども向けのイベントも催され、多くの卒業生が家族連れで母校を訪れました。



2018.11.17

経営学部開設50周年記念式典

1968年に開設した経営学部が今年50周年を迎えたことを記念し、パネルディスカッション、記念講演会、祝賀会を11月17日に開催しました。

R棟フラッテンホールで開催したパネルディスカッションでは、「社会に期待される南山大学経営学部の教育のあり方」と題して、東邦ガス株式会社人事部 鈴木晶大様、株式会社名古屋銀行人材開発部 岩井均太様、株式会社フィールコーポレーション人事部 吉田寛様に「組織の伝統と革新」というテーマでご講演いただきました。

祝賀会には、経営学部卒業生、教育職員、名誉教授が参加し、和やかな雰囲気の中、50周年を祝いました。



Special Events

2018.11.18

南短創立50周年 卒業生の集い～恩師を囲む会スペシャル～

1968年に開学した南山短期大学(2011年4月、南山大学短期大学部に名称変更)が創立50周年を迎えたことを記念し、11月18日にキャッスルプラザ「孔雀の間」で卒業生の集いを開催しました。

当日は恩師によるスピーチや、南山短期大学ハンドベルクワイアのOGチーム「メリットベルリンガーズ」によるハンドベルの演奏、著書『公方様のお通り抜け』で2015年日経小説大賞を受賞した西山ガラシャさん(英語科・1986年度卒業)のミニ講演も行われました。

230名を超える幅広い世代の卒業生が集い、50周年を盛大に祝いました。



Special Events Schedule

2019.3.21

2018年度南山大学卒業式

開催日時: 2019年3月21日(木・祝)

第1部 午後1時より

第2部 午後3時15分より

場所: 南山大学体育館

内訳: 【第1部】外国語学部、法学部、理工学部、情報理工学部、短期大学部、国際地域文化研究科、法務研究科、理工学研究科

【第2部】人文学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、

人間文化研究科、ビジネス研究科、社会科学研究科

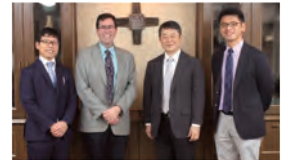
問合せ先: 総務課 (Phone: 052-832-3112)



2018.10.15

アメリカ合衆国ノーザンケンタッキー大学から、Executive Director, Global Engagement and International AffairsのFrançois Le Roy氏が来学され、鳥巢学長を表敬訪問されました。ノーザンケンタッキー大学は、2018年8月に文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された本学の「日米をつなぐNU⁴-COIL² ～地域に根ざしたテイラーメイド型教育プロ

グラム～」の連携先の一つで、今後の大学間交流や学生の交換留学、COIL型授業など幅広い連携について意見交換しました。François Le Roy氏からは、本学は重要なパートナーであり、今後も連携を拡大していきたいとお話がありました。



Information

■ 2019年度学生納付金改定について

2019年度南山大学学生納付金について、2018年1月26日ならびに3月23日開催の南山学園理事会において、消費者物価指数などの外的要因、教育研究条件の改善ならびに経済的現況を総合的に勘案した結果、授業料・施設設備費を据え置くことを決定しました。

◎学部学生(短期大学部を含む)

情報理工学部、理工学部を除く学部については、授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。外国語学部英米学科LL実習費は、1年次生および2年次生は現行の18,000円に、3年次生およ

び4年次生は現行の9,000円に据え置く。

情報理工学部、理工学部については、授業料を現行の818,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

◎大学院学生

理工学研究科および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

理工学研究科については、授業料を現行の

654,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

法学研究科(2019年4月開設)は、授業料を574,000円、施設設備費を105,000円とする。

【2019年度学生納付金徴収(引落)日】

・春学期(第1・第2クォーター分)

2019年4月12日(金)

・秋学期(第3・第4クォーター分)

2019年9月30日(月)

各学期の公示、および学納金通知はがきにてご案内いたしますので、ご確認ください。

■ 寄附者ご芳名

「南山大学レーモンド・リノベーション・プロジェクト募金」へのご協力に感謝いたします。

| | | | | | | | |
|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 坂井康之様 | 島圭子様 | 佐藤長宣様 | 岡崎強様 | 菊池俊昭様 | 松澤諒香様 | 杉本和美様 | 古川昭子様 |
| 石原敬三様 | 鶴本正昭様 | 市川晋平様 | 服部恵美子様 | 舟橋秀岳様 | 井関三香様 | 桃井智之様 | 加藤ゆう様 |
| 林恭代様 | 丹羽陽一様 | 神谷満俊様 | 柳井聡子様 | 大山瑠海様 | 吉田哲也様 | 近藤健一郎様 | 八代佳憲様 |
| 川村憲示様 | 成瀬和徳様 | 菱田正美様 | 渡辺正彦様 | 石川総一郎様 | 濱本幹郎様 | 秋谷良夫様 | 三品雅義様 |
| 岡本彩那様 | 五藤義徳様 | 長村中様 | 羽田匡志様 | 鈴木多喜様 | 山崎真樹子様 | 今西隆様 | 西田久美子様 |
| 石川量洋様 | 加藤みのり様 | 水谷恒久様 | 羽田多江子様 | 戸谷克昌様 | 小田茂樹様 | 武田敬博様 | 佐野守様 |
| 羽場典子様 | 横井達郎様 | 山本睦美様 | 高木伸寿様 | 服部彰善様 | 小椋道生様 | 寺本実加様 | |
| 高橋裕三郎様 | 神尾素様 | 伊藤照満様 | 角朋夏様 | 斎藤立子様 | 水野彩香様 | 中島経年様 | 匿名ご希望者 |
| 長谷川敏江様 | 伴忠行様 | 廣瀬直也様 | 伊野瀬貞志様 | 樋口敏行様 | 船橋英治様 | 佐野久様 | 27名様 |

株式会社桜木不動産コンサルタント
不動産鑑定士 武藤正行様

嶋田歯科医院
嶋田聡美様

不二サッシ株式会社
取締役社長 吉田勉様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

一般社団法人茶道裏千家淡交会
会長 千玄室様

匿名ご希望者 1名様



南山大学

発行 学長室 / 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp https://www.nanzan-u.ac.jp/